

国際外語・観光・エアライン専門学校

学校自己評価報告書

2023年度

目次（評価項目一覧）

1. 教育理念・目標

- 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか
- 学校における職業教育の特色は何か
- 社会経済のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか
- 学校の理念・目的・育成人材像は・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか
- 各学科の教育目標、育成人材象は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか

2. 学校運営

- 目的等に沿った運営方針が策定されているか
- 運営方針に沿った事業計画が策定されているか
- 運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか
- 人事、給与に関する規定等は整備されているか
- 教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか
- 業界や地域社会に等に対するコンプライアンス体制が整備されているか
- 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか
- 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

3. 教育活動

- 教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか
- 教育理念、育成人材象や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか
- 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか
- キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか
- 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか
- 関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか
- 授業評価の実施・評価体制はあるか
- 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか
- 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか
- 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか
- 人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか
- 関連分野における業界等との連携に置いて優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか

- 関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか
- 職員の能力開発のための研修などが行われているか

4. 学修成果

- 就職率の向上が図られているか
- 資格取得率の向上が図られているか
- 退学率の低減が図られているか
- 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
- 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか

5. 学生支援

- 進路・就職に関する支援体制は整備されているか
- 学生相談に関する体制は整備されているか
- 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか
- 学生の健康管理を担う組織体制はあるか
- 課外活動に対する支援体制は整備されているか
- 学生の生活環境への支援は行われているか
- 保護者と適切に連携しているか
- 卒業生への支援体制はあるか
- 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか
- 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか

6. 教育環境

- 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
- 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
- 防災に対する体制は整備されているか

7. 学生の受入れ募集

- 学生募集活動は適正に行われているか
- 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
- 学納金は妥当なものとなっているか

8. 財務

- 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
- 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
- 財務について会計監査が適正に行われているか
- 財務情報公開の体制整備はできているか

9. 法令等の遵守

- 法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
- 個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか
- 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか
- 自己評価結果を公開しているか

10. 社会貢献・地域貢献

- 学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか
- 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
- 地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか

11. 国際交流

- 留学生の受け入れ・派遣について戦略を持っておこなっているか
- 留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか
- 留学生の学習・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか
- 学修成果が国内外で評価される取組を行っているか

2023年度 学校評価報告書

1. 教育理念・目標

(1) 自己評価 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4
学校の理念、目的のもとに特色ある職業教育が行われているか	4
社会経済のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像は・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか	4

(2) 現状

- 当校では以下の教育理念、教育目標を掲げ、人材育成を行っている。また、これらの教育理念、教育目標のもと、各学科において学科教育目標が定められている。

【教育理念】

「教育・文化を通じて地域社会・国家の発展に寄与する。」

【教育目標】

- 一、礼節を重んじる人材を育成する。
- 一、グローバルな視野に立った人材を育成する。
- 一、国際社会に貢献する人材を育成する。
- 一、生きた技能・資格・知識を身につけた人材を育成する。
- 当校の教育の特色として以下の点が挙げられる
 - ・ 第二外国語必須化とネイティブ講師による語学教育の強化をしたカリキュラム構成である。
 - ・ 職業力を高めるための、企業等と連携したインターンシップ等の職業実践型授業や付帯事業と連携した企画運営型授業を行っている。
 - ・ 卒業後の進路選択に備えて専門分野の資格取得に対応するための、課程認定校化等のカリキュラムを整備している。
 - ・ 豊かな人間性を養うために地域行事への参加や、ボランティア活動などを実施している。
 - ・ 国際的な視野を養うため、海外研修の必修化と留学生との交流授業を実施している。
- 教育理念や教育目標は学生には入学当初に配布する「学生の手引き」に記載し、新入生オリエンテーションにて周知している。また、保護者には保護者会にて周知を図り、欠席者に対しては資料を送付し周知を図っている
- 当校では社会のニーズに柔軟に対応するため、主に社会人の入学を想定して、留学、英語、韓国語の語学分野において1年制専科設置してきた。また、長期高度人材育成プログラムにも参加し、社会人の学び直しの機会も提供している。今後も社会のニーズを踏まえて、学科編成、カリキュラム、教育活動を見直していく。

(3) 課題と改善策

- ◎ コロナ禍で 2020 年度に一時中断していた海外研修を 2022 年度より再スタートし、2023 年度はオーストラリア研修(10 日間)および韓国研修(10 日間)を実施することができた。
- ◎ 保護者への教育活動の周知に関して、学校 HP と併用して、学校公式 Instagram を頻繁に更新し、授業や実習、企業連携イベントの周知を意識的に行っている。また保護者へのイベント等の案内は手紙も併用して送っている。ただ、保護者のイベント参加が多くなく、周知されているのかが不透明なため評価を 3 とした。

2. 学校運営

(1) 自己評価 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	4
人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
業界や地域社会に等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

(2) 現状

- 運営方針は部門長によって作成されるビジョンシートに明記され、全教職員に周知される。
- 学校の運営については、学則および諸規定によって明確化されており、有効に機能している。また、教職員による運営組織については組織図、校務分掌を毎年作成することで明確化している。
- 教務・財務等の組織整備など、法人全体の重要事項については、理事会・評議委員会が組織され、定期的な運営状況の報告を行っており、不定期に発生する法人全体に関わる重要事項についても、理事会・評議委員会を開催して意志決定がなされている。
- 校内においては職員会議を定期的に行い、必要に応じて重要事項の協議あるいは周知を図っており、組織としての意志決定を効率的に行っている。
- 人事、給与については法人の就業規則並びに諸規定によって規定されている。
- 教育活動等については当校 Web サイト等により情報公開に努めている。
- 情報システムとしては、学籍管理システム、財務会計システム、予算検討システム、学校業務支援システム（学生納付金の管理等）等により効率的に運用されている。

(3) 課題と改善策

- ◎ 教科書の電子化をグループ全体でも進めている。板書で終わっていたものをパワーポイ

ントでまとめ、繰り返し改善できるように工夫している科目も増えている。

- ◎ 学生の出欠管理をシステム化しようと前期は試みたが、不具合が多く、後期には依然と同様、紙ベースで管理するアナログに戻している。出退勤管理や経理関係もシステム化になっているが、全ての教職員が効率的に使えるまでにはもう少し時間がかかる。

3. 教育活動

(1) 自己評価 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか	4
教育理念、育人人材象や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか	4
関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修などが行われているか	4

(2) 現状

- 教育課程の編成・実施は教育理念、教育目標を踏まえた上で、学科主任を中心に策定される。明確に定められた学科教育目標に沿って体系的に編成されている。
- 実践的な職業教育として、企業と連携したインターンシップ等の職業実践型授業や付帯事業と連携した企画運営型授業を全ての学科で行っている。
- 授業評価については前期・後期の各期に1回、年間2回の学生授業評価アンケートを行っている。結果は担当教員にフィードバックされ授業の改善に反映されている。
- 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確に定められており、「学生の手引き」に記載され学生に周知されている。
- 資格取得についてはカリキュラムの課程認定を進めることで体系的に位置づけ取得しやすい体制を整備している。また、対策授業を取り入れることで学生の資格取得を支援して

いる。

- 教員の資質向上については、専任講師は法人の資格取得奨励制度の活用による専門分野の資格取得を含め、研修会、学会への参加等を奨励している。また、職員の能力開発については法人全体でマネジメントや広報等、各種研修に取り組んでいる。

(3) 課題と改善策

- ◎ 新任講師の授業における指導法については、時間を見つけて研究会を行っている。また非常勤講師ともコミュニケーションを取りながら、教材の使い方や授業の進み方について意見を交換している。ただ、クラス運営では、講師の人柄や考え方によって学生への指導法や声掛けが様々であり、また指導を受ける学生によっても接し方を変えていく必要があるため、クラス運営の正解がわかりにくく、クラスの問題が見えにくいのが課題となっている。

4. 学修成果

(1) 自己評価 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

(2) 現状

- 就職室長を配置し、法人の関連部署、ハローワーク、業界、卒業生等との連携を図り、求人獲得、就職支援を行っている。
- キャリア教育として、業界関係者、業界で活躍する卒業生等による講演を毎年開催している。また、就職に向けた動機付けや業界研究等を行う宿泊型の研修も実施している。
- 「国内旅行業務取扱管理者」「インフィニ検定」等の専門分野の資格についてはカリキュラムの課程認定化を推進し、取得率の向上を図っている。また、その他の資格についても受験直前の集中講義等の対策授業を実施することで、取得率の向上を図っている。
- 健康上の理由や精神的な理由による欠席等、学生の状況については、月例の職員会議で学科主任からの報告により把握、共有される。また、学科主任による学科運営に併せて、学年ごとに学年担任を設置しており、学生の生活上の諸問題等について、必要に応じて個別面談等を実施し、退学率の低減に努めている。
- 卒業生については校友会が組織され、校友会との連携により卒業生の動向を把握している。校友会では各学年より1名の実行委員が選出され、名簿の作成や同窓会等の校友会活動が実施されている。

(3) 課題と改善策

- ◎ 退学率について、健康上、精神的な理由からの欠席や欠課の学生が年々増えている状況で、学生一人一人に合わせた対応が今後さらに必要になってくる。心理的安全性の確保を全ての教職員に意識づけさせることが課題。研修や具体的な事例の共有を通して改善していきたい。
- ◎ 卒業後のキャリア形成への効果の把握と学校の教育活動の改善への活用については、組織的かつ継続的に行われるような仕組みづくりが必要である。今年度はコロナ禍で別の職業選択が迫られた航空業界、観光業界志望の卒業生に既卒求人がある場合は、こちらから連絡を取り、求人を紹介する場合もあった。

5. 学生支援

(1) 自己評価

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

(2) 現状

- 進路・就職相談について、主に学科主任が窓口となり、本人の希望や業界とのマッチング等に配慮しつつ個別指導を行っている。また、学年ごとに学年担任を設置しており、進路・就職相談のみならず、学生の生活上の諸問題等について、必要に応じて個別面談等を実施している。
- 財団法人日本産業カウンセラー協会による学校訪問対面カウンセリング制度、新潟リハビリテーション病院での院内対面カウンセリング制度を整備し、学生相談に対する体制を整備している。
- 経済的な支援体制については、特待生制度、法人独自の奨学金制度、納付金の延分納制度等を整備している。また、事務局に担当窓口を設け、教育ローンや奨学金活用の相談を受け付けている。
- 課外活動については、一定の基準を満たした団体について、学校公認のクラブ活動と認定し、活動費の補助等の支援を行っている。

- 年2回（8月・2月）に保護者会を開催している。希望者には学科主任との個別面談を実施し、保護者との連携を図っている。出席率に問題のある学生に関しては、その都度、保護者と電話面談をしながら問題点を保護者と共有し出席を促している。
- 卒業生に対しては校友会を通じて求人情報等の各種情報を提供している。
- 1年制の旅行国家資格、航空、通訳案内士、留学のコースの専科を設置し、社会人のニーズに対応している。

(3) 課題と改善策

- ◎ 対人関係や学習環境による精神的なストレスから体調を崩す学生が増えている。担任との面談や校外カウンセラーによる LINE カウンセリングを行っているが、なかなか問題解決には至らず担任の負担が多い。担任からは常駐カウンセラーが必要との声も上がっているが、現状は担任が研修を受けながら、不登校やいわゆるグレーゾーンの学生に向き合っている。
- ◎ 高校進路ガイダンスでは、学びと職業について高校生に伝えている。入学有無にかかわらず、社会におけるサービスや語学の必要性について周知活動を行っている。また出張授業を行い、社会人として必要な学びについても伝えている。ただ訪問する高校が偏っており、高校との連携が広く行われていない点が今後の課題であり改善点である。

6. 教育環境

(1) 自己評価 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災に対する体制は整備されているか	3

(2) 現状

- ビジネスクラスの機内を再現した機内サービス施設と、実際に航空券が発見できる空港カウンター実習質が設置され、授業において積極的に運用されており、定期的にメンテナンスするための予算も確保されている。また、全日空の予約発券システム（インフィニ実習室）が設置され、同資格検定の取得を目指して同システムを活用している。
- 当校では教育目標の達成のために、インターンシップの実施と海外研修を積極的に取り入れており、インターンシップ、海外研修ともに受入先と連携して研修が進められるよう教育体制が整備されている。
- 年に1度、避難訓練を実施している。

(3) 課題と改善策

- ◎ 県外ホテルインターンシップについてコロナ禍前の1か月という長期間では、なかなか

参加が集まらないため、10日間や2週間の短期間で実施している。また海外研修も学生の参加人数が集まらない状況がある。来年度以降も経験を積み、広い視野を養ってもらうためにも海外研修の積極的な参加を促していく。

7. 学生の受入れ募集

(1) 自己評価 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
学生募集活動は適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

(2) 現状

- 学生募集については、パンフレット、学生募集要項を毎年作成し、入学希望者に配布している。また、ほぼ月1回の頻度でオープンキャンパスと学校説明会を開催し、オープンキャンパスでは授業体験を実施する等して当校に対する理解を深めてもらっている。その他、学校長による県内高校訪問等による学生募集活動も実施している。
- 卒業生の進路状況や各種資格検定取得状況等の教育成果は、パンフレットやWebサイトへの掲載によって公開されている。

(3) 課題と改善策

- ◎ 学校公式LINEをオープンキャンパス参加の保護者と高校生に周知し、自宅から気軽に問い合わせができるよう公式LINE登録を促進している。学習内容や奨学金など、対面での説明会よりもより具体的で詳細な質問が寄せられている。

8. 財務

(1) 自己評価 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

(2) 現状

法人として健全な財務状況となるべく中長期で収支計画を立てており、適切に外部監査を受けている。

(3) 課題と改善

現状で直ちに改善しなければならない大きな問題はないが、18歳人口の減少や高校新卒者の就職率など外部要因の変動による収支への影響に耐えうる財務基盤の構築を行っていきたい。

特記事項

学校法人として収支計画を立てているため、情報提供も法人単位としている。

9. 法令等の遵守

(1) 自己評価 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

(2) 現状

- 法令、設置基準の遵守について、所轄官庁との対応は法人本部で窓口となり一括して行っている。また、所轄官庁等からの通知についても法人本部を通じて学校に通知され、教職員に周知されている。
- 個人情報の保護に関する規則は明文化されており、学生の手引きに記載され学生へも周知されている。
- 教職員へのアンケート等も踏まえた自己評価を実施し、問題点については順次改善に取り組んでいる。

(3) 課題と改善策

特になし。

10. 社会貢献・地域貢献

(1) 自己評価 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	4

(2) 現状

- 地域の小中学校の総合学習、特別支援学校の校外学習における協力等、当校の教育資源を

活用した地域貢献活動を行っている。

- 自治会行事や地域活動への参加等、学校行事として実施している。公欠を認める等して支援している。
- 「国際理解ⅠⅡ」の授業において地域社会の問題について考えている。自治体や団体、企業から出張授業を実施していただき、多角的な視点で地域を考え直す機会となっている。

(3) 課題と改善策
特になし。

1 1. 国際交流

(1) 自己評価 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
留学生の受け入れ・派遣について戦略を持っておこなっているか	4
留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4
留学生の学習・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4
学修成果が国内外で評価される取組を行っているか	3

(2) 現状

- 留学生の受け入れに関しては、日本語科は4月・10月が入学時期、また、日本語科以外の学科は、4月入学のみとなり、戦略を持ち対応をしている。
- 留学生の受け入れ、在籍管理等に関しては、入国管理国に報告をし、適切な手続きを行っている。
- 留学生の学習サポートおよび生活指導に関しては、担任および、生活指導担当で指導とサポートを行っている。
- 国際交流を国内外で評価される取組は今後の課題であるが、全国規模の語学スピーチコンテストに出場し、語学交流の成果を評価いただく機会として取り組んでいる。

(3) 課題と改善策

- ◎ 全科学年が実施しているSDGs活動の報告会を毎年11月に実施しており、連携企業から学習成果のフィードバックを頂いている。ただ、国外の評価としては海外研修での現地校との交流で評価を頂いているのみにとどまっている。

以上